

「先生、おこったって分かる訳ないでしょ。やさしい方がよく分かると思うよ」と子どもたちに手厳しくやられ、それもそうだなと反省。そしてバフオーマンズ。楽しい日記が生まれた。

（本の読者を意識して、このような評語は通信に載せたものに少し手を加えてある）

彼はあとがきで言う。

「子どもたちは、自分で書き綴るだけでなく仲間の文章にも限りなく興味を示すようになる。彼等の文章はよく家庭や教室で話題になり、笑いを引き起こしたりもした。子どもたちは互いに刺激しあい、それぞれの心情や生活を共有する。それがまた書くことへのエネルギーにもなった。それは、日記の相互作用ともいえるべきものであったろうか。こうして日記活動を通してクラスの姿も造られていったようである。」

彼は日記を閉鎖的な教師と子どもとの間の私信にしていけない。子どもたちは、教師にあてて書いたものでも、同時にそれはクラスの皆への呼び掛け・報告になっていることを意識しながら、集団の中での居心地のよい連帯を楽しんでいる。そういう実践の記録として私はこの書を高く評価する。

「魚沼新報」という地域紙の報道

お知らせ：会員の自費出版

池田一男 著

「新潟県農民運動史（戦前編）」

（A5判・四五九ページ）

戦中に新潟県教員になり、戦後の教育運動に長年尽力されてきた池田一男さんが、退職後二〇年の大半を費やされて、標記の書物を出版しま

によれば六日町のある書店では二週にわたってこの本がベストセラーのトップだったとか。むべなるかなである。

最近少し怠慢になって、子どもたちに日記を書けと呼び掛けることが少なくなっている自分の実践姿勢を叱責され、励まされる思いで私はこの本を読んだ。

（佐藤守正 上関小学校）

した。

「戦前—明治維新の動乱期から太平洋戦争の敗戦まで—の新潟県における農民騒動・小作争議と農民組合運動等の実態を、事実に基づいてできるだけ具体的に叙述しようとしたもの」です。

頒価 五〇〇〇円

申込先 千九五〇—三三三四—

豊栄市上土地亀四九八

TEL. FAX 025-386-3749